

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4110311331		
法人名	医療法人社団如水会		
事業所名	グループホーム「かがやきの里」とどろき		
所在地	佐賀県鳥栖市轟木町1574番地		
自己評価作成日	平成29年1月31日	評価結果市町村受理日	平成29年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成29年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関に隣接した立地のため、入居者の急変時には迅速に対応出来、人工透析の必要な方の受け入れも行っている。また、介護員等の痰吸引の施設登録を行い医療度の高い方の入居も可能である。「看取り」を行い最期まで家族やスタッフに見守られながら終末期を過ごせるようにしている。玄関の施錠は夜間のみで施錠による身体拘束ゼロを実現している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

協力医療機関に隣接したホームであり、看護師をはじめ、喀痰吸引の研修を修了した介護職員が配置されており、医療的ニーズの高い入居者も対応が可能な体制が整備されている。また、「看取り」への対応も行っており、家族や職員に見守られながら最期まで安心した生活ができるように支援している。また、季節ごとにイベントや家族を招いての会食を行う等の生活面での充実も図っており、ホーム外でバーベキューや自家製ピザを楽しむことができるような工夫も行われている。グループ法人や介護保険広域連合での研修会も充実しており、職員は気軽に研修を受講でき、スキルアップできるような取り組みも行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
		1階	2階			1階	2階
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	○				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	1F	2F	外部評価		
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「すべての人に健康という幸せを提供しつづける」GH理念「喜び支え合いを力に」を毎月のカンファレンスで呼称し確認している。	法人理念「すべての人に健康という幸せを提供しつづける」GH理念「喜び支え合いを力に」を毎月のカンファレンスで呼称し確認している。	法人やホームの理念をカンファレンス等で確認し、職員間での統一を図っている。また、各ユニットや職員の一年間の目標を作成、振り返りを行う等、理念の実践に向けた取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りを行い、ポスターを掲示したり地域の方への呼びかけを行っている。毎年来て下さる方が増えている。	夏祭りを行い、ポスターを掲示したり地域の方への呼びかけを行っている。毎年来て下さる方が増えている。	法人の広報活動を基にしながら、ホームでも地域へのアプローチを行っている。特に夏祭りでは子どもたちを通して、地域との交流に力を入れており、年々拡がりをみせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で各地域へ勉強会などを行っているが、GH独自での支援などはできていない。	法人で各地域へ勉強会などを行っているが、GH独自での支援などはできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を行っている。年間行事や事故報告、ご家族の不安などを聞き、職員の対応や家族の対応などの例をあげて話しを進めている。	2ヶ月に1度会議を行っている。年間行事や事故報告、ご家族の不安などを聞き、職員の対応や家族の対応などの例をあげて話しを進めている。	家族参加度の高い会議で、家族や市職員等との意見交換を行い、ホームでのサービス提供方法等を検討している。情報提供だけでなくミニ研修等も実施し、家族の理解が得られるような工夫もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GH協議会の参加、書類の提出は必ず介護保険課に訪問し手渡しをしている。勉強会の講師を依頼して顔見知りになるようにしている。	GH協議会の参加、書類の提出は必ず介護保険課に訪問し手渡しをしている。勉強会の講師を依頼して顔見知りになるようにしている。	グループホーム協議会への参加や書類提出等の際には直接的に関わり、意見交換ができる関係づくりに努めている。市職員もホームを視察する等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の玄関は夜間のみの施錠。ユニットの入り口はセンサーはあるが夜間のみの施錠であり、また裏口も出入りは自由である。	ユニットの入り口はセンサーはあるものの、夜間のみの施錠。ベッド臥床時の4点柵が必要な方がいる。毎月のカンファレンスで外せないかの検討を行っている。	研修等を通し、身体拘束しないケアについては職員間での理解している。2階では、毎月、外すための検討しているが、臥床時・夜間帯のみ、家族の理解の下、4点柵を行っている。	今後も様々な方法について検討を重ね、身体拘束をしないケアに向けた取り組みについて期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	在宅センター全体の勉強会の開催している、個人での勉強会への参加も促している。	在宅センター全体の勉強会の開催している、個人での勉強会への参加も促している。		

自己	外部	項 目	1F	2F	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの職員から勉強会を開催して頂き、学ぶ機会を作っている。	地域包括支援センターの職員から勉強会を開催して頂き、学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、またはケアマネージャーが必ず契約書をよみあげ、その都度不明な点がないかききながら契約を行っている。	管理者、またはケアマネージャーが必ず契約書をよみあげ、その都度不明な点がないかききながら契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。運営推進会議でも質問を受け付けている。玄関にカレンダーの設置の要望あり、設置した。	玄関に意見箱を設置している。運営推進会議でも質問を受け付けている。玄関にカレンダーの設置の要望あり、設置した。	入居者や家族から意見を言いやすい雰囲気づくりを行っており、提案された意見は検討し対応している。また、ケアプラン作成時等においても、家族からの意見を取り入れ、運営や支援方法に反映するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで意見交換を行い改善を行っている。レクリエーションの予算を変更など	カンファレンスで意見交換を行い改善を行っている。レクリエーションの予算を変更など	カンファレンスでは積極的な意見交換ができており、設備・備品等についての意見も管理者がとりまとめ、法人等へ提案できる体制が整っている。また適宜、職員からの意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年の2回の個人面談を行って、目標設定や、要望を聞き取っている。	年の2回の個人面談を行って、目標設定や、要望を聞き取っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内、院外の研修の参加を促している。アセッサーの制度を活用する予定(在宅センター全体で)	院内、院外の研修の参加を促している。アセッサーの制度を活用する予定(在宅センター全体で)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会の参加している。	GH協議会の参加している。		

自己	外部	項 目	1F	2F	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者、家族に十分説明を行い安心して過ごせるような関係作りをしている	入居希望者、家族に十分説明を行い安心して過ごせるような関係作りをしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に利用者の様子を説明したりして、また以前の事などを再度聞き取り不明な点を明らかにしケアの修正を行っている。	面会時に利用者の様子を説明したりして、また以前の事などを再度聞き取り不明な点を明らかにしケアの修正を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報にこだわらず、本人の反応や行動を見極め柔軟に対応している。	入居前の情報にこだわらず、本人の反応や行動を見極め柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を畳んだり、一緒にソファでくつろぐ時間を設けたりしている。	洗濯物を畳んだり、一緒にソファでくつろぐ時間を設けたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、状態の報告を行い家族の希望はどこにあるのかを看取りを含め話しをするようにしている。	面会時には、状態の報告を行い家族の希望はどこにあるのかを看取りを含め話しをするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前入居されていたご家族の面会があり〈同郷〉。それ以外の交流はない。	ほとんどが家族のつながり、馴染みの場所などがない。	家族等から情報収集を行い、入居者の状況に応じた馴染みの関係継続の支援を行っている。外出時には馴染みの人・場所等へ行き、コミュニケーションを図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の動きに注意してスタッフに声を掛けてくれる方もいる。	人の事は気になるので食事を勝手に競ったりしているので、関わりが持てる関係ではない。		

自己	外部	項目	1F	2F	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	通所に移行している方などあいさつをしている。	通所に移行している方などあいさつをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランは定期的に確認し、変化があればその都度家族にも説明をし修正している。	ケアプランは定期的に確認し、変化があればその都度家族にも説明をし修正している。	本人や家族に確認しながら、思いや暮らし方の意向に沿って対応している。意思表示が困難な方は家族等と協議しながら状況を把握し、その思いを実現できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力を得て、昔の写真や、年賀状を持参してもらい、若いころの話などをする手段としている。ご家族、特に子供さんたちは親の既往が分からない方が多い。	家族の協力を得て、昔の写真や、年賀状を持参してもらい、若いころの話などをする手段としている。ご家族、特に子供さんたちは親の既往が分からない方が多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の観察を行い、その日の状態に応じて休む時間などを臨機応変にしている。	状態の観察を行い、その日の状態に応じて休む時間などを臨機応変にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に観察ポイントを把握し、スタッフの意見を反映させ計画に取り込んでいる。	ケアマネージャーを中心に観察ポイントを把握し、スタッフの意見を反映させ計画に取り込んでいる。	1カ月毎のカンファレンスにて、ケアマネージャーや職員の意見を取りまとめ、計画作成、モニタリング、評価を行っている。計画作成時には家族へ事前に意向確認をする等、それぞれの意見が反映できるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については個人差があるので、カンファレンスなどで記録の書き方などの指導をしている。	記録については個人差があるので、カンファレンスなどで記録の書き方などの指導をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日など、本人の好みや体調に合わせて行っている。	誕生日など、本人の好みや体調に合わせて行っている。		

自己	外部	項 目	1F	2F	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事には地域のボランティアの助けをえて、踊りや歌を聴いたりしている。	行事には地域のボランティアの助けをえて、踊りや歌を聴いたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係医療機関と連携している。外部の往診もある。	関係医療機関と連携している。外部の往診もある。	かかりつけ医と協力医療機関での連携は十分に図られており、役割分担をしながら、適切な医療を受けられるように支援している。また、家族の協力を得て、他科受診等も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用されている方もおり、情報の共有に努めている。	状態の観察を行い、変化がある場合は担当医に連絡を行い指示を仰ぎ、悪化防止につとめている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は毎日面会を行い病棟スタッフからの情報を得るようにしている。	入院中は毎日面会を行い病棟スタッフからの情報を得るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階から看取りも行う事を伝え、本人の変化に応じて最期の時をいかにむかえるのか、また、家族にも最期の覚悟をして頂くように少しずつ、話している。	入居の段階から看取りも行う事を伝え、本人の変化に応じて最期の時をいかにむかえるのか、また、家族にも最期の覚悟をして頂くように少しずつ、話している。	入居時より本人や家族に対しては説明を行うとともに、職員へも入居者の病状等に基づいて、その必要性を説明、共有している。また、協力医療機関とも連携を図り、その支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法の講習会を年1会、消防署の協力を得て行っている。	心肺蘇生法の講習会を年1会、消防署の協力を得て行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災避難訓練を行っている。本年からは水害などのその他の災害についての避難マニュアルの作成に取り組んでいる。	年に2回の火災避難訓練を行っている。本年からは水害などのその他の災害についての避難マニュアルの作成に取り組んでいる。	年2回の火災避難訓練では、実際に夜間帯の訓練等を行っている。法人全体で在宅部門での災害避難マニュアルの作成にも取り掛かっているほか、備蓄面でも連携を図り、必要物資を確保に努めている。	災害時では地域との協力体制が求められる。今後、どのように地域へ緊急時を知らせるか等の方法や協力体制の構築についての取り組みを期待したい。

自己	外部	項 目	1F	2F	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや、入浴時などは特に気を付けている。また、他の部屋は入ろうとする方もいるので観察をし注意しながら誘導している。	トイレや、入浴時などは特に気を付けている。また、他の部屋は入ろうとする方もいるので観察をし注意しながら誘導している。	一人ひとりの状況に応じた声掛けや対応を行い、尊厳を損ねないような取り組みを行っている。記録物等は指定の場所で管理し、個人情報の保護も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	簡単な質問で答えやすいように問いかけをするようにしている。	簡単な質問で答えやすいように問いかけをするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課はあるが、体調や希望をききながら一日の流れを大事にしている。	ホームの日課はあるが、体調や希望をききながら一日の流れを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣類の選択が出来るようにしている。	季節に合わせた衣類の選択が出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の咀嚼や嚥下の状態に合わせて替えている。	入居者の咀嚼や嚥下の状態に合わせて替えている。	家族とも協議を行い、手作りの食事にこだわっている。また、入居者の状態に合わせた提供も行い、食事を通した生活の自立を図っている。また、嗜好物や行事の食事等も楽しみになるように力を入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者と契約し、福祉メニューを提供している。量は一律にせず利用者に合わせたボリュームにして食欲を低下させないようにしている。	業者と契約し、福祉メニューを提供している。量は一律にせず利用者に合わせたボリュームにして食欲を低下させないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。経管栄養の方も同じく経管前の口腔ケアに心がけ誤嚥性肺炎の予防に努めている。	毎食後の口腔ケアを行っている。経管栄養の方も同じく経管前の口腔ケアに心がけ誤嚥性肺炎の予防に努めている。		

自己	外部	項 目	1F	2F	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排せつできるように援助している。	出来るだけトイレで排せつできるように援助している。	トレイで自立した排泄ができるように支援しており、日中は紙(布)パンツを活用している。チェック表を活用し、トイレでの排泄を促し、尿路感染症の予防等にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼りすぎないように、乳製品などを提供し排泄チェックを行っている。	薬に頼りすぎないように、乳製品などを提供し排泄チェックを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後と行っている。入る順番は体調や感染症などで変更している。	午前、午後と行っている。入る順番は体調や感染症などで変更している。	入居者の状態を考慮しながら、週3回の入浴が楽しくできるように取り組んでいる。状態によっては、足浴とシャワー浴を組み合わせたり、個々に沿った入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠剤は使わずに自然に任せている。夜間眠れない時は昼寝をすすめて、休息を取っている。	眠剤は使わずに自然に任せている。夜間眠れない時は昼寝をすすめて、休息を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	臨時薬などスタッフが分かるようにノートを活用している。	臨時薬などスタッフが分かるようにノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や嗜好品などを把握して、レクリエーションを行っている。	趣味や嗜好品などを把握して、レクリエーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望のある方は「どうぞ」と制限せずスタッフが後ろから付いていく等している。	帰宅願望のある方は「どうぞ」と制限せずスタッフが後ろから付いていく等している。	入居者の希望や状況に応じて、戸外へ出かけられるような支援に努めている。重度化した入居者であっても、近所への外出や買い物へ出かけることができる機会を設けている。	

自己	外部	項 目	1F	2F	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は個人でお金を持たないようにしているが、本人の強い希望でもっており、売店などの希望があればついていく。	基本は個人でお金を持たないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で家族へ電話などを摂りついでいる。	携帯電話を持っている方がいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	匂いなどに気をつけ、空調や風通しなどを行い過ごしやすい環境に心がけている。	匂いなどに気をつけ、空調や風通しなどを行い過ごしやすい環境に心がけている。	共用空間では、入居者が過ごしやすいうようにソファや畳の部屋が用意しており、それぞれが思い思いの場所で過ごされている。また、季節に応じて扇風機や加湿器等を準備し、入居者に負担のない空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビの位置を変えて利用者同士が過ごしやすい雰囲気を出すようにしている。	ソファやテレビの位置を変えて利用者同士が過ごしやすい雰囲気を出すようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた家具などの持ち込みをお願いしている。	以前使用していた家具などの持ち込みをお願いしている。認知症の進行で家具も危険な時もあるため部屋のものをのぞいたりして本人に合わせている。	鏡台やタンス等、使い慣れた家具を持ち込むことによって、居心地により居室づくりを行っている。入居者の希望に応じ、適宜、ベッドの位置を変更する等の支援も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子自走、新聞を読む、広告を折るなど自由に過ごせるようにしている。	車椅子自走、新聞を読む、広告を折るなど自由に過ごせるようにしている。		